

こくど会定例懇親会報告

今年も恒例の定例懇親会を6月27日(土)12時より表参道の青学会館アイビーホールで開催いたしました。参加者は会員43名、会社より朝倉社長、竹下副社長、土代常務、長屋人事リーダーにお越しいただき、合計47名となりました。

年々、体調不良や遠隔地の為欠席される方も多くなっていますが、その一方で近況のご連絡を頂く方も増えていることで、欠席であっても皆様の会への思いが伝わって来ます。

会は冒頭、司会の柴田幹事よりこのOB会が1984年4月10日の創立記念日に発足し、既に30年を超えるものとなったことが紹介されました。またこの1年間に逝去された17名の方を偲び黙祷を捧げました。

大谷会長あいさつ、来賓を代表して朝倉社長の祝辞を頂いた後、出席者中最高齢の水足浩雄さん(93才)の乾杯で懇親会が始まりました。

今年は「懐かしい人との会話が最大のご馳走」というコンセプトで賑やかに会話を楽しんで頂き宴たけなわではありましたが、最後に新任の竹下副社長と今後こくど会をご担当いただく総務部長屋リーダーの自己紹介を頂いた後、最も遠来の参加者ということで小谷安蔵さん(マレーシア)による中締めを行い、堂上高治さんの仕切りで集合写真撮影を行って散開となりました。

(文責 苧坂)

■大谷会長あいさつ



最近やっと本格的な梅雨を迎えて大雨が心配でしたが、何とか助かったようです。

本日は皆様大勢お集まり頂き、また遠方からも何人かお越し頂きありがとうございます。昨年に続きまして会社から朝倉社長他役員の方にもおいで頂きお礼申し上げます。

2020年に東京オリンピックということで、また東日本

大災害の復旧をそれまでにやるということで国を挙げての大盛況で建設業は本当に好況のようで昔なら両手を上げて大喜びですが最近では世の中随分事情が変わって来て、職人の不足やオリンピック後の景気がどうなるかといったことがあり、単純に喜んでばかりいる訳にはいかないようです。

この会にご出席頂いた人はそれなりにご健康ということで喜ばしいことと思います。私も何とか病気をせずに来られるということは、自分で生きているというよりは周りの人に生かされているという思いで過ごしています。

中身はよくわかりませんが先日、日本老年学会の分析が新聞に出ていました。10年、20年前に比べ65才以上の高齢者が身体的にも心の方もまた健康の方も5才～10才若返っているそうです。高齢者もただ支えられて生きて行くということではなくて、これからはまだまだ元気な方はお互いに助け合って能動的に動いて行かなければならない、そういう時代になったのかなと考えています。

この会も先程ご紹介の通り随分歴史を重ねて参りましたが、私も会長をお引受しまして数えて見ますと13年という永い年月が経っています。私はもう今年で80才になる訳で昨年この会も大きく

いろいろ組織、構成も変わって参りましたので、来年のこの会では是非誰か新しい会長さんに出て頂いて新しい企画で、私の時よりももっと活発にこの会を運営して頂きたいと願っております。

私のモットーとしまして1日1回楽しいことを経験することを心掛けているのですが、その一番の要素はやはり親しい人と会う。会ってお話をする、ということが一番の楽しみということになるのではないかと。そういう意味で今日のこの会で大勢の懐かしい人とお話出来るということは今日の一番の本当に喜びだと思います。よろしく申し上げます。

■朝倉社長 祝辞

どうも皆様ご苦労さまです。昔懐かしいお顔を拝見して嬉しく思っております。

今大変良い状況に来ているのは、長い間会社のことを想っていただいた皆様のお陰ではないかと感謝しています。また皆様雨の中多勢お集まり頂き遠くからも参加され盛大に会が開催されたことに本当に心よりお礼申し上げます。

皆様一番気になるのはおそらく決算とか配当が

どうなるかということもございませうから、そのあたりについてご説明させていただきます。

私は現在社長として3期目に入りますが大変風向きに恵まれていて、会社更生前後から始まって以来ここ20年位で最高の決算となりました。

数字の概要を申し上げますと5月決算なので事業報告の原稿段階でまだ確定したものではありませんが、売上は連結ベース、つまり国土開発工業を含めたもので前期比で15%増の1,120億円と久方ぶりに1,000億円台の売上となっています。また営業利益は31億7千万円とこれも過去20年位以来か、それ以前からかもわかりませんがかなりハイレベルな内容が見込まれています。受注は5月末決算で単体の金額で約1,200億円、前の期が1,300億円位。6月から新しい期に入っていますが、数年前にはちょっと予想できない非常に良い数字になっています。

更生以来17年間ずっと受注1,000億円、利益10億円を目標にして来ましたが、前期の5月にやっとこの数字を達成することができました。無事回帰というより、いきなり倍々となって垂直上昇に近い形ですが、丁度私が入社した40年前に受注1,000億円をめざして、いろいろなことをトライしてやっていたと思いますが、丁度その時の数字に戻ってきた。やっと原点に戻ったという状況だと思います。17年前の不幸な会社更生法申請からやっと復活の兆しが少し原点に着いて来たような状況だと思っております。

繰越の工事の方ですが、少し施工力がウチは弱いものですから、おそらく1,300億円分の1年分以上の繰越工事残高を持っていまして、87期という6月からの新しい期もある程度の数字が出せるものと考えています。お陰様でこの場でこのような話が出来るとはありがたいことだし、皆様方にも安心して頂けるものと思います。

次に我が社のトピックと言いますかお知らせですが、創業以来ずっと支店というものがあって、独立権限を持つ支店長を置いていましたが、昨年度から支店という事業体をやめて東西2つに分けその中で、さらに土木と建築の事業本部を分けて大きく4つの事業の責任体制としました。土木事



業と建築事業の採算がはっきり別れるという体制です。その成果という訳ではございませんが、建築事業単体で営業利益に貢献することができました。前期の決算では営業利益の黒字ということで私の記憶では過去に粗利益の黒字はありましたが、なかなか管理費まで全て負担して営業的に黒字というのは本当に初めてではないかと思っております。これまで利益面では土木中心の会社で、まだまだ 55:45 位ですが世の中は本来建築が 7 割、8 割を占めていることを考えると、これから安定した収入を得る為にはさらに世間並に建築利益の比率を上げて行く必要があります。とは言え建築が黒字化したことは非常にいいニュースだと思っております。

それから建築のもっといいニュースとしては東海興業さんから 120 名の方に会社清算に伴い大阪方面中心に来て頂きました。非常に建築の方の底上げが出来ていて、将来にわたって伸びて行く為のいいニュースになっています。

しかしながら先程も出ましたが東北の復興事業と太陽光発電という、言ってみれば賞味期限が 3 年程度しかないところの受注が一気に 400 億円ということで、このままこういう事業が終わると厳しい状況が急激に来ることも想定しており、昨年から関連事業を設置。土木、建築と言った受注分野ではそういった受注というものがどうしても社会の情勢に左右されますので、そういう事業の展開により安定した収益にしようとして今動いているところです。やっていることは今まで不良債権として持っていた永年塩漬けになっている土地が一杯あったのですが、太陽光発電、結構億単位の金が出てくるのですが、これを進めたり、他の社有不動産をリーシングしたり、そういったことをしながらあまり受注に依存しなくても利益が出せる形を考えています。

結びになりますが、本当に日本国土開発は今いい状況ですが、皆様方も是非健康に気をつけて長生きをしていただかなければならないので、また色々なアドバイスやご支援をお願いしたいと思っております。合わせて日本国土開発をどんどん良い会社になりたいと思っておりますのでご指導よろしくお願いします。本日は本当におめでとうございました。

■写真集



